

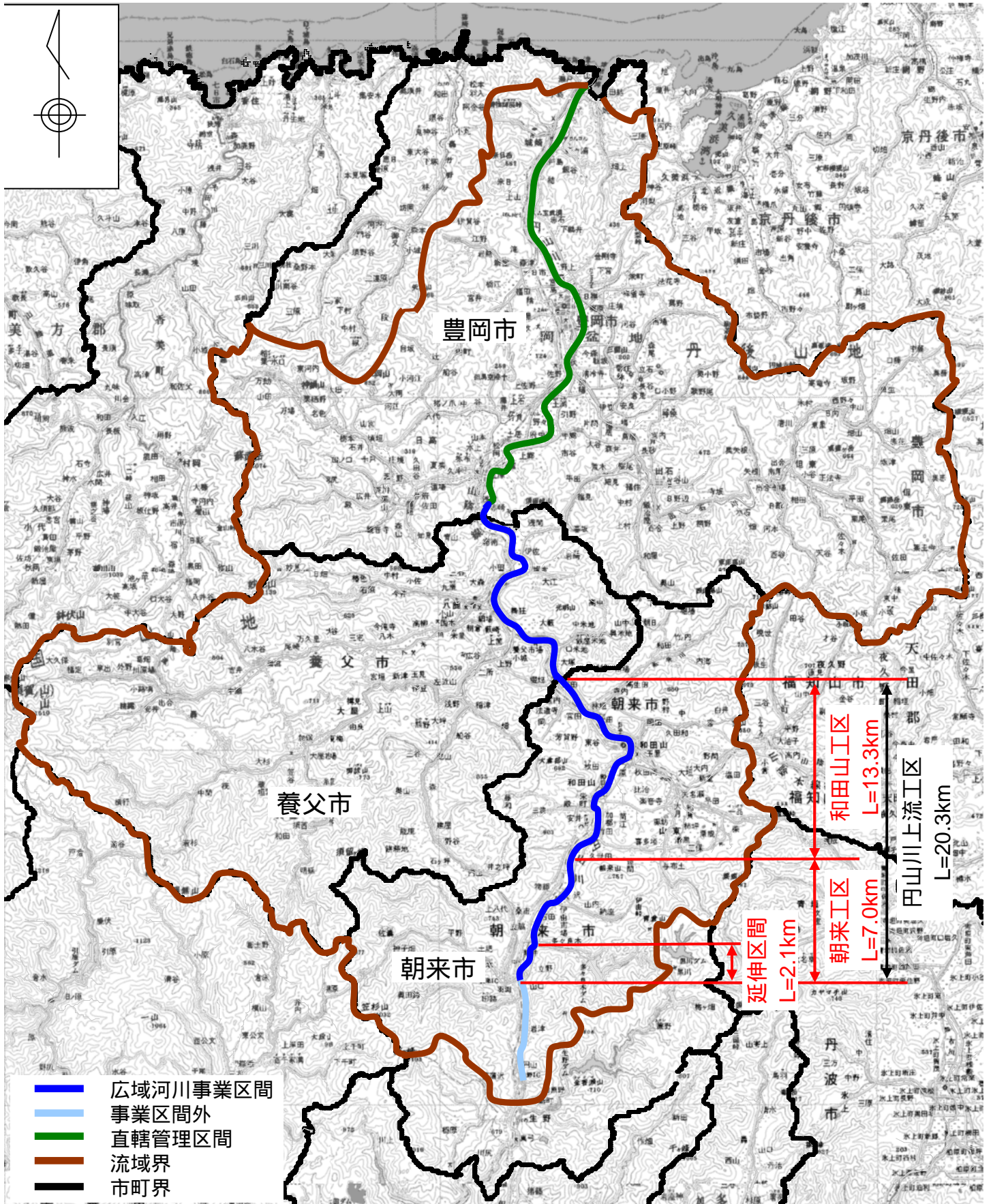
継続事業評価調書
【河川事業】

土木局 河川整備課

投資事業評価調書（継続：再評価〔第4回〕）

部課室名	県土整備部土木局 河川整備課	記入責任者職氏名 (担当者氏名)	河川整備課長 糟谷昌俊 (治水係長 木村浩之)	内線	4408 (4437)		
事業種目	河川事業		新規評価年度	-	現計画	前回評価時点	
事業名	一級河川円山川 広域河川改修事業(上流工区)	事業採択年度	和田山工区 S23 朝来工区 S63	総事業費	203 億円	171 億円	
		着工年度	和田山工区 S23 朝来工区 S63				内用地補償費
事業区間	朝来市和田山町高田～新井 (朝来市和田山町高田～多々良木)		再評価年度 (河川整備計画の報告)	H10 (H14) H19	完成予定年度	H38	H35
所在地	朝来市和田山町高田～朝来市新井 (朝来市和田山町高田～多々良木)			進捗率	66%	76%	
				(内用補進捗率)	(85%)	(88%)	
				残事業費	69 億円	41 億円	
事業の目的				事業内容() 前回評価時点			
当該河川では、昭和34年9月伊勢湾台風、昭和51年9月台風17号、平成2年9月台風19号などにより甚大な浸水被害が発生している。そのため、引堤等による河川改修を実施し、既往最大となる平成2年9月台風19号規模の洪水に対して浸水被害を防止し、地域住民が安全で安心して生活できる環境を確保する。				計画流量 1,600m ³ /s (1,600m ³ /s) 治水安全度 1/60 (1/60) 延長 20,300m (18,200m) 橋梁 20 橋 (20 橋) 井堰 11 基 (8 基) 〔負担割合 国: 1/2 , 県: 1/2〕			
事業を取り巻く 社会経済情勢 等の変化	【前回評価時点からの事業計画の変更概要】 現事業区間で新田・大井両井堰統合化の合意形成が図られるなど一定の流下能力向上が見込めることとなったため、河川整備計画に流下能力の向上対策を行う区間として位置づけている神子畑川合流部までの上流 2.1km も事業区間に加える。 これにより、事業期間を 3 年延伸するとともに、事業費を 32 億円増額する。						
進捗状況	(1) 和田山工区 河川改修が概ね完了し、平成2年台風19号洪水流量を流下可能とした。 近年のH16年10月台風23号、H21年8月台風9号による洪水において、円山川本川からの溢水による家屋等への浸水被害は発生していない。 (2) 朝来工区 全体7.0kmの内橋梁 3 橋の改築を含む下流部1.9kmを平成23年度までに完了する。 平成24年度から新田・大井統合井堰工事に着手し、平成26年度末までに完成させる。						
評価視点	評価結果の説明						
審査会意見及び 対応方針 (H19年度 再評価)	【審査会意見】 井堰の統廃合などのコスト縮減にも継続して取り組まれない。		【対応方針】 H24 年度着手の新田・大井統合井堰など井堰を統合することによりコスト縮減を図る方針。				
(1)必要性	円山川流域は、S34年9月伊勢湾台風をはじめS51年9月洪水、S62年10月洪水、既往最大の雨量を観測したH2年9月台風19号において多くの被害が発生し、近年ではH21年8月台風9号の洪水により、新井地区等上流区間で甚大な被害が発生している。 神子畑川合流部から下流の区間は、平成14年に策定された円山川水系上流圏域河川整備計画において流下能力の向上対策を行う区間として位置づけされている。						
(2)有効性 ・効率性	費用便益比 B / C = 1 . 2 (前回 B / C = 1 . 2) 井堰の統合化により効率的な整備を進める。 下流から順次完成断面で整備を進めるのではなく、特に安全度が低い区間を、上下流バランスに配慮した暫定的な改修を行うなど区間全体でバランス良く治水安全度を上げていく。						
(3)環境適合性	河道内の工事に際しては、魚類の遡上等河川の連続性に配慮するとともに、従前からあった瀬や淵、みお筋等を可能な限り保全・復元するなど、生物の多様な生活環境への影響を最小限にとどめる。						
(4)優先性	平成21年台風9号洪水による浸水被害が発生するなど事業の優先性は高い。						
結再 果評 価の	継続	左 の 理 由	事業の必要性は、事業採択時と変わっておらず、再度災害防止に向けた当該事業の完了により、地域住民の安全安心な生活環境を早期に確保するため、継続して事業を実施する必要がある。				

流域概要図



出水状況(H2.9台風19号)

旧和田山町、旧朝来町 町境付近



多々良木橋付近

